

Accompañamiento del baile

片桐勝彦のバイレフラメンコ

texto por Katsubiko Katagiri

VOL.26 Rumbas

～はじめに～ 最近ではフィンデフィエスタでブレリアが踊られることが一般的ですが、私がフラメンコを始めた頃は、舞台の最後にルンバが頻繁に踊られました。ルンバの持つノリの良いリズムや名曲の数々は、フラメンコをあまり知らない人たちにも受け入れやすいです。ルンバの起源や成立過程のほか、バリエーションの多いリズムパターンのギターの弾き方などを紹介します。

◆ ルンバの起源～成立過程 ◆

キューバン・ルンバ

ルンバの起源はキューバのハバナ周辺に住むアフリカ系移民たちの歌や踊りですが、ソン(キューバのサンティアゴ・デ・クーバ周辺の音楽)が欧米に紹介される際にルンバとして広まってしまったため、呼び名が混同されました。1930年にニューヨークで演奏されたソンのスタンダード「エル・マニセーロ(El manicero 南京豆売り)」によって、俗に言うルンバがアメリカとヨーロッパで大流行し、その後フラメンコと結びついてルンバ・フラメンカへと発展して行きます。(キューバの音楽については昨年4月号のアヒーラで詳しく説明していますので、参照してください。)

ルンバ・フラメンカ

スペインでは1918年にニーニャ・デ・ロス・ペイネス(Niña de los Peines 1890-1969)によってルンバの初録音が行われました。他にベルナルド・エル・デ・ロス・ロビートス(Bernardo el de Los Lobitos 1887-1969)らの録音も残っています。1920年代から1950年代にかけて世界的に流行したワラチャと呼ばれるキューバの歌や踊り、更にはコロンビアのケンビアンバ(ケンビア)などもフラメンコのルンバ(ルンバ・フラメンカ)形成の上で大きく影響しています。

ルンバ・カタラーナの成立

1950年代にバルセロナのグラシア地区を中心に、ヒターノたちがフラメンコとラテン音楽を融合させることによって、ルンバ・カタラーナ(カタラン)が生まれました。また1955年、ニューヨークでファン・マジャ・マローテ(Juan Maya Marote 1936-2002)の伴奏によるカルメン・アマヤ(Carmen Amaya 1913-1963)の録音も有名です。その後ルンバは、1960年代にはフラメンコの舞台には欠かせない曲種になりました。元来、ルンバはフィエスタやショー向けの性格が強く、フラメンコ界では軽いものと思われがちな曲種でしたが、1973年にリリースされたパコ・デ・ルシアの二筋の川(Entre dos aguas)の大ヒットによって、重要なパロの一つになりました。余談ですが、それから30年近くも経つ



2000年セネガルにて



《著者プロフィール》

日本を代表するフラメンコギタリスト。幼少の頃よりヴァイオリンを始め、その後ギターを独習。A-JARIやチリケマルカ等のグループ活動を経て、明治大学在学中にフラメンコギターを始める。'98年から長期渡西、マドリードのタブラオ“カサ・バタス”やセビージャのラジオ番組などに出演。帰国後はカニサレスとの共演やNHK「音楽のある街」で出演。主な参加CD・DVD：風回廊(渡辺えり)、天国を見た男(沢田研二)、Boy(coba)他。Estudio ROMERO主宰。

た2000年に私が乗ったスペイン～セネガルのイベリア航空路線のBGMも二筋の川でした。その時、ルンバがアフロリズムとフラメンコの融合だということを強烈に肌で感じることが出来ました。

ルンバ・カタラーナの発展

ルンバ・カタラーナの名手としては、ローラ・フローレス(Lola Flores 1923-1995)の夫でもあるバルセロナのエル・ペスカイージャ(El Pescailla 1925-1999)やペレ(Peret 1935-2014)が特に有名です。ペレはギターの弾き語り(ルンベーロ)で、1992年のバルセロナオリンピックの閉会式にも出演しました。ルンベーロ(女性はルンベーラ)とは歌って踊る人のことも指します。日本ではチャチャ手塚氏が有名です。

1990年台後半以降はオホス・デ・ブルッホ(Ojos de Brujo 1996年結成)やアルゼンチン出身のガト・ペレス(Gato Perez 1951-1990)らがヒップホップやレゲエなどの他ジャンルの音楽とルンバを融合させたメスティサヘ(Meztisaje 混血)を生み出しました。他ジャンルの曲のルンバでの演奏は、男たちのアルテフラメンコ(於プレステージ)で私自身2003年以降何度も演奏した経験があります。その時代、特に日本でも流行っていたのかもしれないですね。

ルンバの踊り手としてはグラン・アントニオ(1921-1996)が有名ですが、ラ・チュンガ(La Chunga 1938-)も忘れてはいけません。今から20年前頃、彼女が六本木のチニータスで裸足で踊っていたことを思い出される人も多いと思います。

ジプシー・ルンバ

スペイン内戦とそれに続くフランコ(Francisco Franco 1892 - 1975)の独裁政権下に南フランスなどへ逃れたヒターノ(ジプシー)たちや、以前から南フランスに住むスペイン系ヒターノたちが、ルンバ・カタラーナをジプシー・ルンバへと発展させました。そして1980年代のワールドミュージックブームも伴って、南フランスのグループ、ジプシー・キングス(Gipsy Kings 1979年結成)がジョビ・ジョバやパンボレオなどの曲を世界的に大ヒットさせます。ジプシー・キングスはフランスの有名なフラメンコギタリスト、マニタス・デ・プラタ(Manitas de Plata 1921-2014)の息子や甥たちで構成されています。

ジプシー・ルンバは大勢で同時にギターを弾くことによって、音圧と強いアクセントが生まれ、迫力とスピード感が強調されます。そして、ゴルベやラスゲアード(かき鳴らし奏法)の多用で打楽器のようにリズムをきざんでいる上にリードギ

ターだけがメロディーを奏で、幅広い名曲や流行り歌が歌われます。

ジプシー・ルンバで有名なグループは、ジプシー・キングスのほか、チコ&ザ・ジプシーズ (Chico & the Gypsies 1992年結成)などたくさんのグループがあります。

◆ 音楽的特徴 ◆

調性

音階はブレリアやタンゴやセビジャーナス同様、フラメンコのミの旋法のほか、長調、短調すべての音階が使われます。

リズム

4分の4拍子で記譜した場合、2小節(8拍)で1コンバスになります。キューバのソンのリズムのように2拍目と6拍目の間にアクセントがきます。ジプシー・ルンバは4拍目と8拍目にもかなり強めのアクセントをつけて演奏されます。

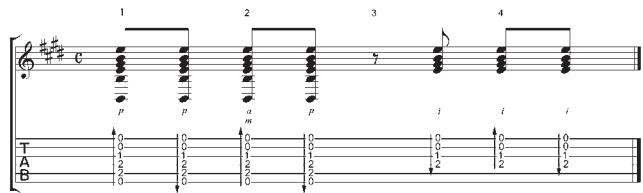


◆ ギターの弾き方 ◆

バリエーションの多いルンバのリズムパターンの中で、基本的な右手の奏法を紹介します。

譜例1

1拍目は特別に音量を大きくする必要はないのですが、薬指のゴルペを伴う親指のダウンドラムで弾いて、太くはっきりした音色にしてください。アクセントは2拍目の間にしっかりとつくよう、親指のアップで強く弾きます。そして3拍目は手のひら全体ですべての弦に上から蓋をする要領でボディーを叩いてゴルペ音を鳴らします。3拍目の間にからは人差し指だけで高音弦をアップ、ダウン、アップと軽く弾いてみてください。



譜例2

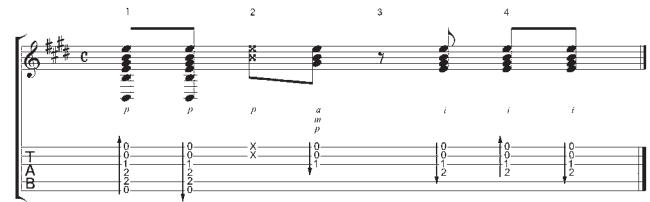
1拍目と3拍目は手のひら全体でのゴルペです。



譜例3

譜例1同様、ゴルペを伴う親指のダウンドラムから始めます。2拍目と2拍目裏を続けて親指で6弦より上の部分のボディーをゴルペします。その際、2拍目裏は中指と薬指のダウンドラムで

同時に弾きます。4拍目を4分音符にして、カッティングをしてアクセントをつける弾き方もあります。



譜例1から譜例3まで、すべて4拍目裏のアップから1拍目に繋げるニュアンスで若干シンコペーション気味で弾くとノリが出てきます。

◆ 代表的な曲 ◆

マノーロ・デ・ベガ (Manolo de Vega 1942 -2015) のソン・ソン・セラ (Son, son será) など、よく歌われる曲は口ずさめるようにしてくださいね。

ラ・タララ

Ay Tarara loca	おどけたタララは
mueve la cintura	腰を振ってみせる
para los muchachos	オリーブ摘みの
de las aceitunas	少年たちに
Ay Tarara si, ay Tarara no	タララ、シー、タララ、ノー
ay Tarara niña de mi corazón.	タララ、私の心の少女
Camarón de la Isla (1950-1992)	

カマロンのアルバム「La leyenda del tiempo」(1979)に収められたものが特に有名です。ロルカ (Federico García Lorca 1898-1936) の「13のスペイン古謡」の中の一曲。アルベニスの「イベリア」の中にも同じメロディーが出てきます。

Volando voy

Volando voy, volando vengo	飛んで行こう、飛んで来よう
por el camino yo me entretengo.	進もう、楽しくやろう
Camarón de la Isla (1950-1992)	

やはりカマロンの「La leyenda del tiempo」に収められています。

ベルデ

Verde que te quiero, verde	緑よ、あなたが好きだ、緑よ
Verde viento, verdes ramas	緑の風、緑の枝
El barco sobre la mar	海に浮か舟
Y el caballo en la montaña, verde	そして山にいる馬、緑よ
Yo te quiero verde, si, si,	あなたが好きだ、緑よ、そう、そう
Yo te quiero verde, ay ay ay	あなたが好きだ、緑よ、アイ、ジャイ、ジャイ
Yo te quiero verde.	あなたが好きだ、緑よ
Manzanita (1956-2004)、Ketama (1984年結成)	

ロルカの「Romance Sonámbulo (夢遊病者のロマンセ)」に収められた1篇。映画「フラメンコ」でのマンサニータとケタマとの共演が有名です。

舞台の最後に挨拶も兼ねて、是非ルンバを踊ってみてください。次回は12月号になります。